

一般質問特別号

群馬県議会議員

高井俊一郎が 一般質問に登壇します。

群馬
テレビ

県議会
ネット通信



9月28日(月)

午前10:00～11:05(65分)

高井俊一郎プロフィール

- 新島学園高校、國學院大学 卒業、早稲田大学大学院修了
- 安産・子育ての宮 山名八幡宮 第27代宮司
- 元 高崎市議会議員(2期8年)
- 公益社団法人 高崎青年会議所 第63代理事長
- 第41回高崎まつり実施本部長
- 群馬県議会議員(現在2期目)
- 青山社中リーダー塾・10期生
- 元・高崎市立南八幡中学校PTA会長
- 元・高崎市PTA連合会副会長・家庭教育委員長
- 男子3人剣士の父親

詳細は
公式HPへ



—— テレビで見る ——
「群馬テレビ(3ch)」をつける。

—— スマートフォンで見る ——
右のQRコードを読み取り「生中継を見る」
をタップ。



—— パソコンで見る ——
「群馬県議会インターネット中継」で検索。

今回の一般質問で取り上げるテーマ

① 快疎と首都圏3,700万人を活かした成長戦略について

- 副首都構想について
- 人を呼び込むための戦略とビジョンについて
- 関係人口から人財・企業誘致、そして産業の成長へ
- 農業における企業誘致について

② 始動人と未来を育むための教育について

- 生成AI時代に求められる教育について
- UniPath(不登校)支援について
- 高崎市の小学校7時開門の影響について

③ 官民共創と自助・公助・共助の在り方について

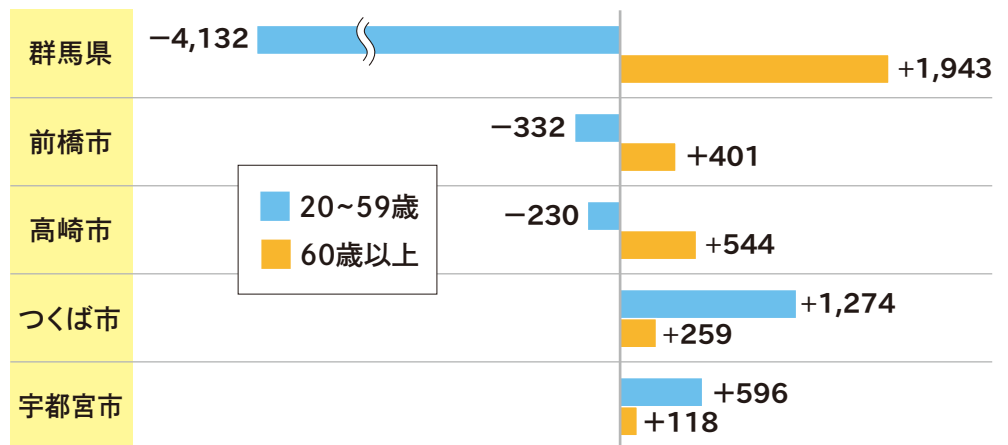
- 社会課題解決型の官民共創について
- 休眠預金を活用した県民活動支援について

※質問の内容は変更になる場合もございます。

● 人口増は地域の力を示すバロメーター

群馬県は移住希望地ランキングで2年連続1位（2024・2025年）に輝きました。しかし、このランキングが数えているのは「移住相談件数とセミナー参加者のアンケート」であり、実際に住民票を移した人数ではありません。全国移住相談件数が過去最高を更新（73,003件/前年比+18.3%）する中、群馬県のPR効果は確かに高まっていますが、これはあくまで入口の指標にすぎません。

20～59歳と60歳以上に分けた純移動 2025年・日本人移動者



*出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告 2025年」

本当に見るべきは「社会増減」という出口の指標

2025年の群馬県の国内移動（日本人）は、「働く世代は大きく流出し、60歳以上が流入している」という特徴が読み取れます。この数字は推計ではなく、住民票の異動そのものを記録した実数です。移住政策の成果を測るには、「どの年代がどれだけ増減したか」を示す年齢別純移動をKPI（ゴールに向かうまでのプロセスの目標数値）に置くべきだと考えます。

働く世代を引きつけ、定住へとつなげる「本質的な人口の社会増」の達成が、群馬県の未来を左右します。首都圏3,700万人の命と暮らしを支える「副首都構想」を結実させるためにも、受け皿となる本県の人口・産業基盤の強化は不可欠です。実効性のある人口政策を力強く推進するよう、提言する予定です。



他都市を比較すると見えるもの

純移動に関して、北関東3県の代表的な都市を比較してみると、「つくば市の圧倒的なひとり勝ち」がひと目でわかります。20～59歳の働く世代が大きく増えており、若い世代を取り込もうとするつくば市の戦略的な移住政策が功を奏したと言えるでしょう。

それに対して、高崎市の場合は働く世代が減り、60歳以上（高齢層）の転入が増加するという逆の構造です。この違いは、総数だけを見ていてはわかりません。どの年代を増やしたいのか（ターゲット）を明確にし、その年代の純移動を分析していくことが戦略的な移住政策の第一歩となります。

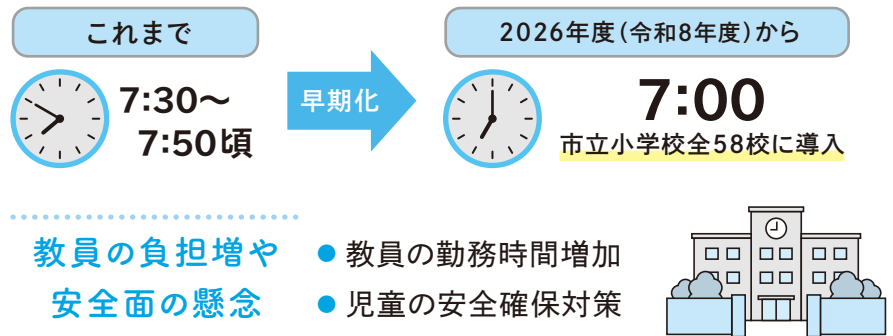
● 高崎市の小学校7時開門の影響について

本年4月より高崎市が導入した「小学校の午前7時開門」。共働き世帯やひとり親家庭の支援を目的として始められましたが、現場の教職員や教育関係者の間では強い不安と懸念が広がっています。

「保護者の支援」という目的は理解できる一方、実効性のある安全対策や人手不足への配慮を欠いた制度設計に対して現場の教員からは悲鳴が上がっています。

学校の設置・運営権限が市町村にあることは前提としつつも、教員の採用・人事権を持ち、雇用主であるのは「群馬県教育委員会」です。現場で苦悩しながらも目の前の子どもたちのために奮闘している教職員を守り抜くため、県教委としてしっかりとした強い姿勢と明確なメッセージを示すよう、雇用主としての責任ある対応を強く求めてまいります。

教職員の90%以上が反対！



全国メディアでも話題に！「7時開門」を巡る議論と課題

高崎市の「小学校7時開門」は、フジテレビ『めざまし8』『イット!』やテレビ朝日『ワイド!スクランブル』など、全国のニュース・ワイドショーでも大きく取り上げられました。

番組内では、共働き世帯から「早朝の通勤に助かる」と歓迎の声が上がった一方、教育関係者やコメンテーターからは「見守り人員がいない中での事故やトラブルへの懸念」「教員の過重労働やボランティア依存」など、安全管理や制度設計の難しさが指摘されました。

単なる一自治体の取り組みにとどまらず、全国的に大きな議論を呼んでいます。